

平成22年度一般会計当初予算説明資料

6款 農林水産業費

1項 農業費

6目 農作物対策費

生産振興課(内線:7414)

(単位:千円)

| 事業名          | 本年度   | 前年度    | 比較     | 財源内訳  |    |     |        | 備考 |
|--------------|---|--------|--------|-------|----|-----|--------|----|
|              |   |        |        | 国庫支出金 | 起債 | その他 | 一般財源   |    |
| 次世代鳥取梨産地育成事業 | 55,827  | 62,341 | △6,514 |       |    |     | 55,827 |    |
| トータルコスト      | 69,543千円(前年度 71,455千円) [正職員:1.7人]                                     |        |        |       |    |     |        |    |
| 主な業務内容       | 関係団体との連絡調整、補助金交付事務、新品種のPR、技術実証  |        |        |       |    |     |        |    |
| 工程表の政策目標(指標) | 産地活性化を目指して、園芸試験場等の県内で育成された高品質な梨新品種の導入面積の拡大を推進(梨新品種導入面積:平成27年度目標200ha) |        |        |       |    |     |        |    |

事業内容の説明

1 事業の目的・概要

梨産業活性化をめざして生産者及び県民、関係機関が一体となり、ブランド化を目的とした鳥取県育成オリジナル新品種の早期導入と生産基盤の整備を図るとともに、PRや産地づくり運動を展開する。

事業期間 平成20年度～平成22年度

2 主な事業内容

(単位:千円)

| 区分           | 事業内容  | 事業主体                          | 事業費    | 予算額    | 補助率  |
|--------------|---|-------------------------------|--------|--------|--|
| 生産基盤整備対策     | ブランド化をめざした新品種の導入とそれに伴う基盤の整備を図る<br>・新植改植、高接ぎ更新、及び果樹棚の整備<br>・網かけ施設、かん水施設等の設置<br>・防除用機械、園内道の整備 | 農業協同組合、生産組織、認定農業者又は認定農業者に準ずる者 | 64,188 | 38,913 | 1/2以内<br><br>2/3以内<br>(新植・改植及びそれに伴う果樹棚・網かけ施設整備に限る) |
| 育成促進対策       | 新品種に取り組む農家に対して導入後の育成経費相当額の一部を補助する   | 市町村                           | 26,241 | 12,087 | 1/2以内  |
| 栽培技術実証対策     | 新品種本来の味を発揮する栽培技術の現地実証を行う  | 県                             | 448    | 448    | —  |
| 鳥取梨ブランドアップ対策 | 県育成オリジナル新品種の登場を県独自でPR   | 県                             | 2,579  | 2,579  | —  |
|              | 新品種等の生産及び販売戦略を構築し、県育成オリジナル新品種のPRや産地づくり運動を展開する   | 全農とっとり                        | 3,600  | 1,800  | 1/2以内  |
| 合計           |   |                               | 97,056 | 55,827 |  |

3 これまでの取組状況、改善点

【指標】 梨新品種の導入面積 : 200ha → 【現状】 49ha

事業の推進により、苗木導入による新植・改植及び高接ぎ更新による新品種の導入が進んだ。また、併せて実施した新品種の販売促進やPR活動の効果で、市場単価が高単価で取引されたため、新品種の導入が堅調に推移した。引き続き、事業を継続する。